

平成 25 年 校内研修計画

1. 研究主題

「友達を大切にし、自分が生きるキャリア教育」(3年計画2年次)
－コミュニケーション能力の育成を通して－

2. 主題設定の理由

本校では、昨年度より『友達を大切にし、自分が生きるキャリア教育』に取り組んできた。「人とかかわりながら生活し、目標に向かって生き生きと活動できる児童」の育成をめざし、「キャリア教育の視点での教育課程の実践」「各教科の基礎的・基本的学力の習得」「自己肯定感・自尊感情を育む道徳授業」を研究の柱として取り組んできた。取組の成果として、「キャリア教育の視点で教育課程の実践」では、本校の教育課程に合わせた各学年の年間指導計画を作成することができ、キャリアの視点で教育活動や子どもの姿を見ることができるようになった。教師側がキャリアの視点を持ち、日々子どもたちと接することで、子ども達が主体的に活動するための言葉かけや効果的な取組を仕組むことができるようになった。また、ある学年の実践では、職業人の生の声を聞き、身の回りのいろいろな仕事について調べたり、自分の夢について考えたりしたことで、より具体的な将来像を持ち、日々努力すべきことが分かってきた様子を感じることができたことはキャリア教育の実践の大きな成果といえる。

また、「各教科の基礎的・基本的学力の習得」では、生徒指導の三機能の三つの場を取り入れ、その場において個々を評価する授業を仕組んだ。年度末の児童アンケートからは、友達とかかわって学習する有用さ・楽しさを実感する児童が9割以上を占め、「できた、わかった、またやりたい」という子どもの育成にもつながったと思われる。しかし、子どもたちの達成感や学習意欲、学力の向上、自己肯定感の育成にまで至っていない。そして、「自尊感情を育む道徳の授業の充実」では、立案したものの、具体的な実践を推進することができなかった。

そこで、今年度は、「人とかかわりながら生活し、目標に向かって生き生きと活動できる児童」を目指し、児童が学習の楽しさを感じ、他者とかかわることの大切さを感じることができる学びの創造を継続しながら、自己肯定感・自尊感情を育てること、各教科の基礎的・基本的学力を習得することを目指し、研究を進めていきたいと考えている。

3. 研究仮説

国語科・算数科・言語数理運用科においてコミュニケーション能力の育成に焦点を当てたキャリア教育の実践をすることによって、自己肯定感を持ち目標に向かって取り組む子どもを育成することができるであろう。

4. 研究内容

(1) キャリア教育の視点での教育課程の実践

達成感を味わい、学習意欲を継続できる単元計画と授業づくり

本校の教育課程をキャリア教育の視点「基礎的・汎用的能力」で見直したものを、育てたい力に即して教育活動の内容とつなぐ。

- ・生活科や総合的な学習の時間の地域の人とかかわる単元
- ・社会科の仕事，産業に関する単元
- ・学級活動の係や当番にかかわる内容
- ・児童会行事の異学年との交流に関する内容（縦割り班での活動）
- ・道徳の自分の生き方にかかわる内容
- ・保育園・幼稚園との連携に関する内容（年長児と1年生との「昔遊び交流」，幼稚園児と5年生との「遊び交流」「学校案内」）

(2) 各教科の基礎的・基本的学力の習得

付けたい力を明確にし、各教科、領域との関連を図った計画・実践

子どもたちの日々の学習・生活態度は、自分の夢に向かっての関心・意欲をもつこととかかわり「なぜ勉強しなくてはいけないのか」「将来どのように役立つのか」ということについての発見や自覚が学習に対する意欲の改善につながり、学習意欲の向上が期待される。

(3) 自己肯定感・自尊感情を育てる道徳授業や特別活動の充実

自他の良さを感じることができる人とかかわりがある授業づくり

他者とのコミュニケーションをとる能力・態度を中心に、挨拶や返事，応答の仕方など基本的な生活習慣の確立や、遊びや集団活動を通しての人間関係形成能力の育成など具体的な目標を設定し、小学校段階での能力を育成する。

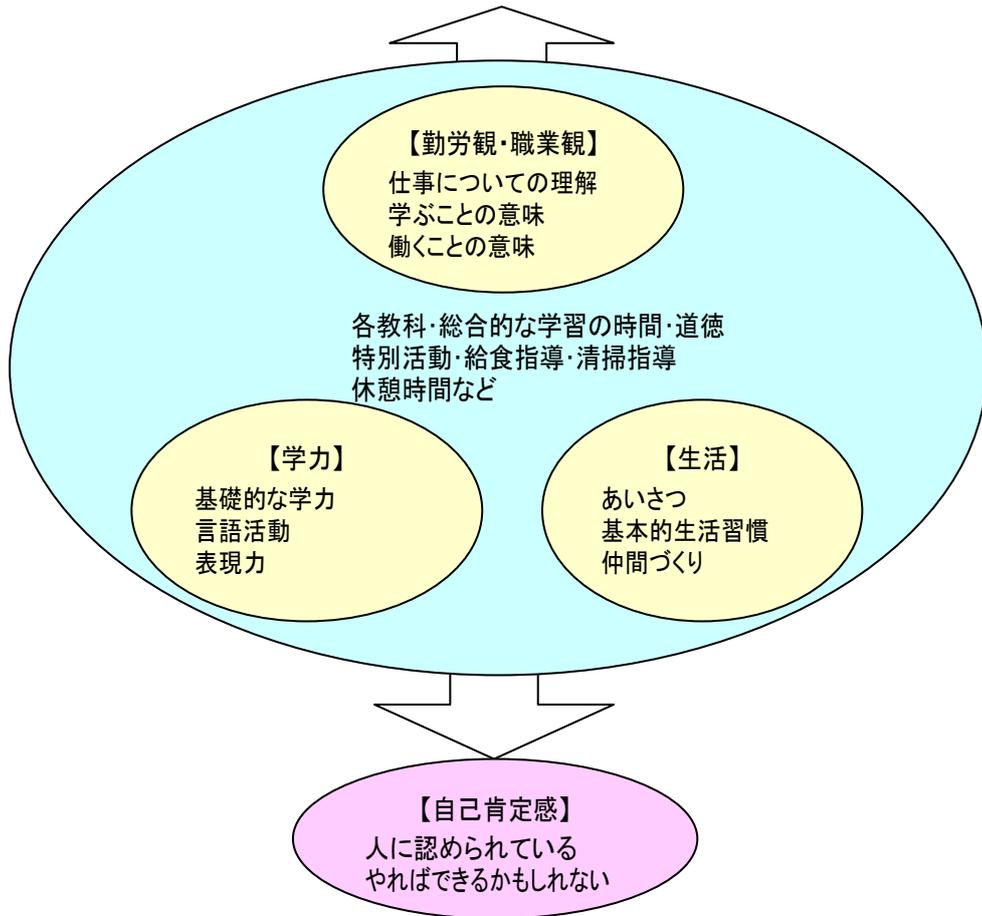
自己肯定感を育む人に役立つ喜びを感じる活動の充実

日々の教育活動の中の当番活動，係活動，委員会活動など自分の役割を意識し活動する場面において，他者とかかわりの中で，人（学校）の役に立てた，人を笑顔にすることができた，喜んでもらえたと実感する経験を積み重ね，自己肯定感を育成する。

5. 研究の構造化

「友達を大切にし、自分が生きるキャリア教育」(3年計画2年次)
ーコミュニケーション能力の育成を通してー
目指す子ども像【人と関わりながら生活し、目標に向かって生き生きと活動できる児童】

やってよかった, できた, わかった, またやろう, 自分ってすごい



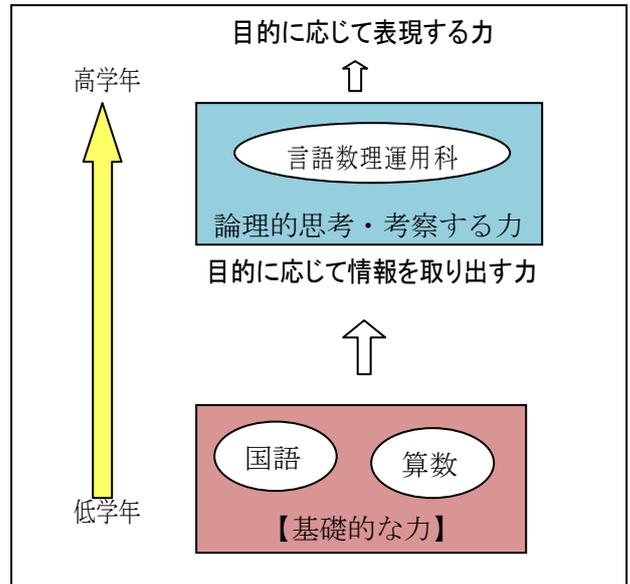
6. 研究の具体的実践

(1) 「ひろしま型カリキュラム」による実践

今回の学習指導要領改訂の基本的な考え方にはキャリア教育という言葉は特記されていないわけではない。しかし、「基礎的・基本的知識・技能の習得」をすることや「学習意欲の向上・学習習慣の確立」は、小学校段階において今の学びを将来に結びつける重要な基盤となるものである。

義務教育創造特区として広島市が実践している「ひろしま型カリキュラム」は、低・中学年で学習の基礎になる国語、算数の知識・技能を身に付け、その力を実生活に活用できる能力まで高めることを目標とした「言語・数理運用科」を設けている。この教育課程は、キャリア教育に結びつく理念であると考えられる。

そこで、本校では、広島らしさを発信するキャリア教育として、低・中学年では国語科・算数科の基礎を、高学年では言語・数理運用科での実践を試行するものとする。



(2) 生徒指導の三機能を活用した授業づくり

昨年度に引き続き「わかる授業」「できる授業」づくりを実践することにより、達成感を味わい、継続的な学習意欲を喚起できるようにする。そのために、学習意欲を支える生徒指導の三機能を生かした授業づくりを行う。

生徒指導の三機能を生かした授業とは、「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」ことである。内発的学習意欲を支えるものとして、有能感、自己決定感、他者受容感の三つがあげられ（桜井茂男「自ら学ぶ意欲を育てる先生」図書文化）であり、この言葉はそれぞれ「自己存在感」「自己決定感」「共感的人間関係」という言葉に置き換えられ、生徒指導の三機能と関連が深い。よって、学習意欲に関わって三機能を生かした指導を行うことは、心理学の面からも有効なことがうかがえる。そこで、生徒指導の三機能を生かした授業づくりを行うことにより、学習意欲を高めることができ、学力の定着⇒学習意欲の喚起⇒将来に続く学習意欲の継続というような学びの連続性をもつことができると考える。

そこで、以下の3点にしばった授業づくりを行う。とくに、本年度は、共感的人間関係を育成することに力を入れて取り組んでいく。そのことにより、自己肯定感や自尊感情が高まっていくと考える。各学年で共感的人間関係を育成する手立てを構築し、実践する。

	授業づくりの視点	児童の姿	具体的な姿
①	自己決定の場を与える授業	自ら課題を見つけ、それを追究し、自ら考え、判断し、表現する。	自分の考えをノート、ワークシート、作文、発表で表現する。
②	自己存在感を与える授業	児童一人一人が学ぶ楽しさや成就感を味わうことができる。	一人一人が活躍できた。授業に関わった。楽しかったという気持ちになる。
③	共感的人間関係を育成する授業	お互いに認め合い、学び合うことができる。	互いに聴き合う、認め合う、教え合う、励まし合う、協力し合う

(3) 自尊感情・自己肯定感を育てる道徳授業や特別活動の充実

生き生きと活動できる児童を育成するために、目標となる姿を伝え、肯定的評価を行う。

目指す子ども像の具現化

人とかかわりながら生活し	⇒ 自分や他者の個性を尊重し、人とかかわりの中で自分の思いや意見を適切に表現する。
目標に向かって	⇒ 自分で目標を決めて、計画し努力したり実行したりする。
生き生きと活動できる	⇒ 情報を収集したり、自らの意志と責任でよりよい選択や決定を行ったりして主体的に取り組む。

**学校の手本となる存在
下学年のあこがれの存在**

仲間に認めもらった。
学級の中で認めもらった。
自分の考えを伝えられた。
高学年としてほめてもらった。
下の学年の役に立てた。喜んでもらった。

高学年

グループの活動の中で、自分の考えが言えた。
自分のことを認めもらった。
友達と力を合わせてできた。分かった。

中学年

先生にほめてもらった。
できた。分かった。
一人でできた。
困っても、こんな方法でできたよ。

低学年

目標となる姿を伝え、肯定的評価を行う。

(4) 生徒指導の三機能を生かした教育活動

生徒指導の三機能の視点で教育活動を計画し、全教育活動で育成する意識をもって実践する。

(5) 「基礎的・汎用的能力」の育成

育成するべき力『「基礎的・汎用的能力」とは、「人間関係形成・社会的形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力によって構成される。』(小学校キャリア教育の手引き改訂版)

人との出会いを大切にし、ゲストティーチャーを活用する。年間指導計画から人材活用できる教育活動を洗い出し、実践する。

基礎的・汎用的能力	具体的な能力	例
人間関係形成・社会的形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力、協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力	他者の個性を理解する力 他者に働きかける力 コミュニケーション・スキル チームワーク リーダーシップなど
自己理解・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力	自己の役割の理解 前向きに考える力 自己の動機付け 忍耐力 ストレスマネジメント 主体的行動など
課題対応能力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力	情報の理解・選択・処理等 本質の理解、原因の追及、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善など
キャリアプランニング能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、 選択、行動と改善など

(小学校キャリア教育の手引き改訂版)

7. 研究方法

(1) キャリア教育の視点から全教育課程で単元を開発する。研究母体は、学年部会とし、学年部会主体で研究推進する。研究部は、研究企画・研究推進組織としての役割を果たす。

- (2) キャリア教育理論研修や演習を行い、教職員の理解と意識統一を図る。
- (3) キャリア教育の視点から、低・中・高学年の重点目標を決定する。
- (4) 共感的人間関係の育成に対する手立てを構築する。
- (5) 児童アンケートを実施する。(6月・12月比較検証)
- (6) 年間指導計画を見直し、各学年のキャリア教育年間指導計画を作成する。
- (7) キャリア教育の単元計画を立て、6単元実施する。その際、授業のふり返しカードを児童に書かせ、単元で育成したい力の成長や変容を読み取る。

6月・7月・9月・10月・11月・1月(予定)

- (8) 6単元のうち、学年・特支援部会で全体授業研究及びブロック別授業研究において1提案の授業研究を実施する(低・中・高学年・特支援の4ブロック)。各教科・総合的な学習の時間・道徳・特別活動を関連付けたカリキュラム(クロスカリキュラム)で構成して行う。全体授業研究指導案やブロック別授業研究指導案・協議会メモを職員に配布する。電子データを研究部のフォルダに提出する。

① 全体理論研修会

5月2日(木) 本年度の研究

5月16日(木) 委員会後 ブロック研 重点目標

- ② 校内授業研究会・・・年間指導計画を立ててから、実施日を決定し、研究部にて調整する。

- 第1回全体授業研 6月27日(木)
- 第2回全体授業研 9月12日(木)
- 第3回全体授業研 10月24日(木)
- 第4回全体授業研 11月7日(木)
- 低学年ブロック研
- 中学年ブロック研
- 高学年ブロック研

○ 校内全体研究会の持ち方

- ・原則、木曜日に実施し、講師を招いて研究協議会を実施する。

研究授業・・・14:00～14:45

研究協議会・・・15:00～16:30

○ ブロック別授業研究会の持ち方

- ・各ブロックで実施日を決め、講師を招いて研究協議会を実施する。
- ・都合がつく場合は、別のブロックでも積極的に参加する。
- ・授業、研究協議、講話などのまとめ(記録)を全教職員に配布する。研究授業は5、6校時の時間帯で行い、その後協議会をもつ。授業カットはしない。

- (9) キャリアの視点で実践した取組の計画・写真などをキャリアBOXに記録として残していく。
- (10) 12月5日に公開研究会(各学年・特別支援1提案)を実施し、本校の取組を提案する。低学年は国語科、中学年は算数科で実施し、高学年は、国語科・算数科を生かした言語・数理運用科で公開する。

(1 1) 研究紀要の作成

- 全体研指導案，協議会のまとめの電子データで研究部のフォルダに提出する。
- 指導案の形式は後日提案
- 授業の記録（ビデオ撮影），協議会の司会・記録（講師の講話も含む），授業の板書・授業風景の撮影はブロック内の相手学年が行う。（電子データを研究部のフォルダに提出する。ビデオは研究部が保管する。）人数が足りない場合は研究部に相談する。

(1 2) キャリア研修日の設定

原則毎月1回（第1火曜日）を研修日にあて、模擬授業を行い、生徒指導の三機能の生かし方やキャリアの視点について協議する。その月に取り組む暗唱・語りを決定する。全体研のない木曜日にも必要に応じて研修日にあてる。

- (1 3) 表現の意識を高め、語彙を増やしたり、美しいことばに触れ表現力をつけたりするために、パワーアップタイム・授業等を活用して、暗唱・語りを行っていく。取り組むために、音読集を研究部で採択する。

※参考文献 DVD音声言語活動シリーズ「音読対話」学習研究社
DVD音声言語活動シリーズ「フリートーク」学習研究社

- (1 4) 自己を振り返るキャリアノートを作成・活用し、自分自身を理解し、成長を感じることができるようにする。（7月，12月）

8. 研究組織



※音楽専科・・・中学年，養護教諭・・・1学年，指導員・・・特支援部会，

※研究部が研究企画・推進の計画を立てる。

【研究部】→【校務運営会議】→【職員会】→【各学年】

※参考文献 『小学校キャリア教育の手引き（改訂版）』 文部科学省

参考資料

広島市立口田小学校 キャリア教育全体計画

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 学習指導要領

学校教育目標
人間性豊かで社会性と自主的実践力のある子どもを育成する。

児童は明るく素直である。学習意欲の向上、自尊感情の育成に課題がある。地域は、自然に恵まれ、交通の便もよく、昔ながらの商店、スーパーなどもあり、生活環境が整っている。教育活動にも協力的である。

(めざす学校像)
○授業が分かり、友達と過ごすことが楽しい学校(子供)
○子どもをかわせてよかったと思える学校(保護者)
○活躍できる場がありやりがいのある学校(教職員)

キャリア教育の目標～人とかかわりながら生活し、目標に向かって生き生きと活動できる児童～

- よりよい人間関係を築きながら、自分や友だちのよさに気付き、共に高めようとする意欲や態度を育てる。
- 様々な職業について、情報収集や体験活動を通して知り、働くことの大切さを理解する。
- 将来への夢や希望を持たせ、それにつながる生活や学習の課題を自分で解決していこうとする意欲や態度を育てる。

基礎的・汎用的能力	低学年目標	中学年目標	高学年目標
○人間関係形成・社会形成能力	・基本的な生活の仕方を身に付け、自分や友達のいい所を見つけ仲良くすることができる。	・自分や友だちのよさに気付き、協力して物事に取り組むことができる。	・自他の意見を大切にしながら行動するとともに、自己の責任を進んで果たすことができる。
○自己理解・自己管理能力	・自分の好きなこと、大切なものをもつとともに、学校ではいけないことが理解できる。	・自分のやりたいことやできることを考え、進んで取り組むとともに、してはいけないことを理解し、自制することができる。	・自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮することができる。 ・自分の役割の大切さを理解して行動することができる。
○課題対応能力	・自分のことを自分で行うことができる。	・計画作りの必要性に気付き、学習の計画を立て、解決しようとすることができる。	・生活や学習での課題を見付け、自分の力で解決しようとするすることができる。
○キャリアプランニング能力	・係や当番の活動に進んで取り組むことができる。	・働くことの楽しさ、生活や学習と将来の生き方との関係に気付くとともに、将来の夢や希望をもつことができる。	・将来の夢や希望をもち、実現を目指して努力することができる。

教科等における指導内容			
各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎・基本の定着を図り、学ぶ意欲を高める。 「ひろしま型カリキュラム」を生かし、低・中学年では、特に、国語科・算数科において基礎の力の定着を図り、高学年では、言語・数理運用科において主体的に学ぶ意欲を高める。 ○ 課題解決的な学び方を習得し、課題解決に向けて取り組む態度を育てる。 ○ 学習集団づくりを通して、学び合い、高め合う態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いやりの心をもち、互いに信頼し協力し合おうとする態度を育てる。 ○ 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知り、公共のために役立つ道徳的実践力を育成する。 ○ 働くことの大切さを知り、進んで働く意欲を養う。 ○ 目標達成のため責任をもってやり抜こうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学級活動】 ○ 学級・学校の一員として、役割を分担して実行する ○ 生活の充実と向上を目指して解決する。 【学校行事】 ○ 集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行う。 【児童会・クラブ活動】 ○ 児童一人一人の学校生活を充実したものにする。 ○ 自己の興味・関心の追究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に目を向け、身近な問題や課題に取り組むことにより、自分の生き方を考える。 ○ 進んで人や物にかかわり、コミュニケーション能力を高める。 ○ 主体的、創造的な探究活動に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

キャリア教育推進の基盤・生徒指導の三機能					
基本的な生活習慣の確立	学級・学年経営の充実	地域・PTAとの連携	校内研修の充実	地域の教育力を生かした題材開発	幼・保・小・中の連携